

日本国際経済学会 第14回春季大会 2025年6月14日（土）西南学院大学

自由論題セッション 第2分科会 貿易理論・途上国経済

アフリカ諸国における景気循環の特徴について

福井 裕貴（神戸大学大学院経済学研究科 博士後期課程）

報告要旨

本研究は、アフリカ諸国の景気循環が他の新興国・先進国と比較してどのような特徴を有するかを、マクロ経済データに基づく実証分析を通じて明らかにするものである。1960～2019年の年次データを用い、一人当たりGDP、消費、投資、貿易収支を対象に、HPフィルターおよび成長率ベースで循環成分を抽出し、景気変動の大きさ・持続性・変数間相関を分析した。

分析の結果、アフリカ経済には次の4つの特徴が確認された。第一に、GDPの変動が他地域と比べて大きく、経済の不安定性が顕著である。第二に、GDPの自己相関が低く、景気の持続性が弱い。第三に、消費の過剰変動が新興国よりも大きく、消費の平準化が不十分である可能性が示唆された。第四に、GDPと貿易収支の間にほとんど相関が見られず、従来の「反循環性」という特徴がアフリカには当てはまらないことが明らかとなった。

また、アフリカを北アフリカとサブサハラ・アフリカに区分して比較したところ、サブサハラ地域において上記の特徴がより顕著に観察された一方、北アフリカではGDPや消費の変動性は新興国に類似する傾向が見られた。

これらの結果は、アフリカにおける景気循環メカニズムがこれまで研究が行われてきたアジアおよびラテンアメリカの新興国とも異なる可能性を示しており、今後のマクロ経済モデルリングや政策分析において、アフリカ固有の構造的要因（金融制約、一次産品依存、制度的特性など）を明示的に取り込む必要があることを示唆している。